

私立中学校入試、公立中高一貫校入試、全国学力調査に英語の導入を

—教育経営品質研究会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林さんは私立中学校入試、公立中高一貫校入試、全国学力調査に英語を導入すべきとお考えなのですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) はい。小学3・4年生で英語に親しむ授業が行われ、5・6年生に正規の英語の授業が行われることが正式に決定されるのであれば、その時期に合わせて私立中学校でも英語の入学試験を導入すべきだと提言いたします。
- (2) これに加えて、公立中高一貫校入試や小学校6年生と中学3年生を対象として文部科学省が行っている全国学力調査にも英語の試験を導入すべきと私は提言いたします。
- (3) 正式な形で小学3・4年生で英語に親しむ授業、5・6年生で正規の英語授業が行われるにも関わらず、私立中学校入試や公立中高一貫校入試、文科省の全国学力調査で英語の試験を導入しないことは、小学生の英語によるコミュニケーション能力の大幅向上に繋がらないからです。
- (4) 東大や早大・慶大をはじめ多くの大学が半分以上の教科を英語で行う計画を立て始めたためか、大学入試センター試験では実用英語検定(英検)準1級合格者には英語の試験を免除し、満点の250点を配点する計画もあるようです。
- (5) 小学校から大学まですべての教科の授業を英語で行うのは、シンガポールだけではなくなりつつあります。例えば、大学や専門学校の授業のすべてが英語で行われているインドの都市部では、月謝約500円で小学生から高校生まですべての教科を英語で教える「低価格私立学校」(Low Cost Private School)が普及し始めました。この全教科を英語で教える「低価格私立学校」の動きは、西アジアから北アフリカにも急速に広がりつつあります。韓国、中国、香港、台湾だけでなくアセアン諸国の小中高生の英語によるコミュニケーション能力の高さは舌を巻くほどです。
- (6) せっかく、文部科学省が下村博文 文部科学大臣の御尽力もあって小学校から本格的な英語教育をスタートし、日本人のグローバル化を促進しようとしているのですから、私立中学校や公立中高一貫校も英語を試験科目に加えて頂きたく希望します。
- (7) 公立中高一貫校の入試は「適性試験」プラス「抽選」を早急に廃止し、私立中学校と同じように学力試験一本ですべきと考えます。私立も公立も学校の設立の理念、社会的使命(ミッション)を明確にした上で、学校の教育の質を向上させてお互いに切磋琢磨することにより生き残りを図るべきと考えます。
- (8) 小学校で英語が指導されるのであれば、全国学力調査は算数・数学と国語の2科目に限定するのではなく、英語も導入して英語学習を大いに促すべきと考えます。

Q : どのような内容の英語の入試や試験にすべきとお考えですか。

- A** : (1) 英語によるコミュニケーション能力を向上させる試験を目指すべきです。英語の「読む」(Reading)と「聞く」(Listening)の2技能という従来型の試験だけでなく、「話す」(Speaking)と「書く」(Writing)の2技能を加えた4技能を同一の配点で評価する試験を目指すべきです。
- (2) 4つの各技能ごとに習得段階のレベル分けをして、レベルごとの詳細なCAN DO LIST(キャン・ドゥ・リスト)、つまり、この技能については、この段階ならこのようなことをすることができるというリストを、英語の試験の作問者は予め作成して受験者に示し、自己学習を促す。「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR セファール)を参考にして、試験を受ける受験生の立場に立った作問、出題が期待されます。
- (3) 実用英語検定(英検)の評価が高いのは、5級から1級までのCAN DO LISTが4技能に分けてレベル別にできているからです。
- (4) 学力のレベルはA₁ A₂ B₁ B₂ C₁ C₂と6つに分かれます。A₁が初級、C₂が熟達です。ヨーロッパの語学教科書にはすべてこの6つのレベル表示があります。
- (5) 日本でもCAN DO LISTに基づいた外国語教科書の出版が始まりました。NHK ラジオスペイン語講座 2013年4月～9月(2014年10月～2015年3月再放送予定)のテキストは、現時点で最も優れたものと高く評価されます。
- (6) 入試の作問者にも相当の能力が求められます。

Q : そうであるならば、自校で作問ができるようになるまで、私立中学校入試の英語に代えて実用英語検定の1年以内の「○級合格」を合格の条件とすればよいのではないのでしょうか。

- A** : (1) その通りです。私は「英検」を英語の入試に代用すべきと考えます。「英検」の試験自体をもっともっと磨き込んだ上で、私立中学校、公立中高一貫校、私立高校、公立高校、高等専門学校(高専)、大学、短期大学、専門学校などの入試は「英検」で代用することが、日本人の英語によるコミュニケーション能力向上に役立つと考えます。
- (2) 小学生でも英検に合格できるか。例えば、群馬県太田市にある国語と社会以外はすべての教科を英語で指導する「群馬国際アカデミー」(小1～高3)に入学を希望する多くの受験生は、幼稚園の年長で英検3級に合格。小学生のうち英検2級に合格する児童も少なくありません。
- (3) 首都圏の私立中学校を目指す小学生の多くも、本格的な受験勉強が始まる5年生になるまでに英検3級だけは取っているようです。
- (4) 私立中学校入試の条件として英検3級または準2級合格を示すことは一つの見識と私は考えます。

Q : 学習塾、予備校、私立学校の経営者、経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

- A** : (1) 英語を担当する先生方とともにヨーロッパの外国語学習のための共通参照枠(CEFR セファール)や英検のCAN DO LISTを研究した上で、小学生から中学生、高校生に到る6年間あるいは12年間の独自の一貫した英語教育の「CAN DO LISTのカリキュラム」をまずは策定。
- (2) その上で、独自の教材(テキストとテスト、補助教材)を英語の各先生が執筆、作成。自力で作成できない人は最も適切なものを選択、購入、活用。
- (3) 毎授業ごとに「教案(Lesson Plan レッスンプラン)」を作成して授業を展開。授業終了後は毎回「省察(Reflection リフレクション)」。レッスンプランを先生としての成長の記録とする。
- (4) 以上のようなスキルを持つ本格的なプロの英語の先生の採用と育成に励むべきと考えます。

(5)例えば、日本国内であれば新潟県南魚沼市にある国際大学の英語教師を含む英語のサマープログラム(7、8月 8週間)への派遣は、現職の英語の先生の研修に最適です。

(6)有能な英語の先生を採用し、高い目標を与え続けて評価し(ストレッチアセスメント)育成し続けること。経営者の役割は「人づくり」に尽きます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：本年も日本最古の学校、足利学校のある街、栃木県足利市で第9回全国模擬授業大会が5月25日(日)に足利工業大学附属高校をお借りして開催されます。また、足利市は日本で最も働く人の自主性を尊重した5S活動が盛んで、2012年には「第1回世界5Sサミット」まで開催されましたので、翌26日(月)にはそのコンパクト版視察会を行います。(「第2回世界5Sサミット」は来年11月開催予定です。)開倫塾62校舎の取り組み(開倫5S学校)も現地で御視察ください。「教え方日本一」と「サービス産業の生産性向上」の2つの取り組みが御覧頂けます。是非、御参加ください。

お詫び

本月号は、バンコクからの報告の予定でしたが、経済産業省サービス政策課とジェトロ、経済同友会(東京)国際化推進プロジェクトチームの3者の合同企画のバンコクでの国際会議(1月12日～14日)は会場付近がデモ隊に包囲されたため中止となりました。

お詫び申し上げます。

